

2015年3月期 決算概要

テルモ株式会社

上席執行役員 IR・広報室担当

北畠 一明

2015年5月8日

決算ハイライト

全社

- 薬価・公定価改定の影響を吸収し、過去最高の営業利益を達成
- 主要因は、①心臓血管の伸長、②円安、③カンパニー経営下での収益マネジメントの徹底

心臓血管

- 海外カテーテル・ニューロが継続して二桁伸長
- Ultimaster(新DES)は順調に拡大中
- 品質システムおよび血液モニターにおいてFDAの規制解除(TCVS社)

ホスピタル

- 国内の市場環境が厳しい中、ポートフォリオミックスの改善や、低収益ビジネスの縮小により収益性を維持

血液

- 市場環境の悪化に備え、コストコントロール強化
- 製品では、アフェレシス治療や細胞増殖システムなどが伸長、地域では、中南米・アジアで継続伸長

増収増益、営業利益・経常利益は過去最高

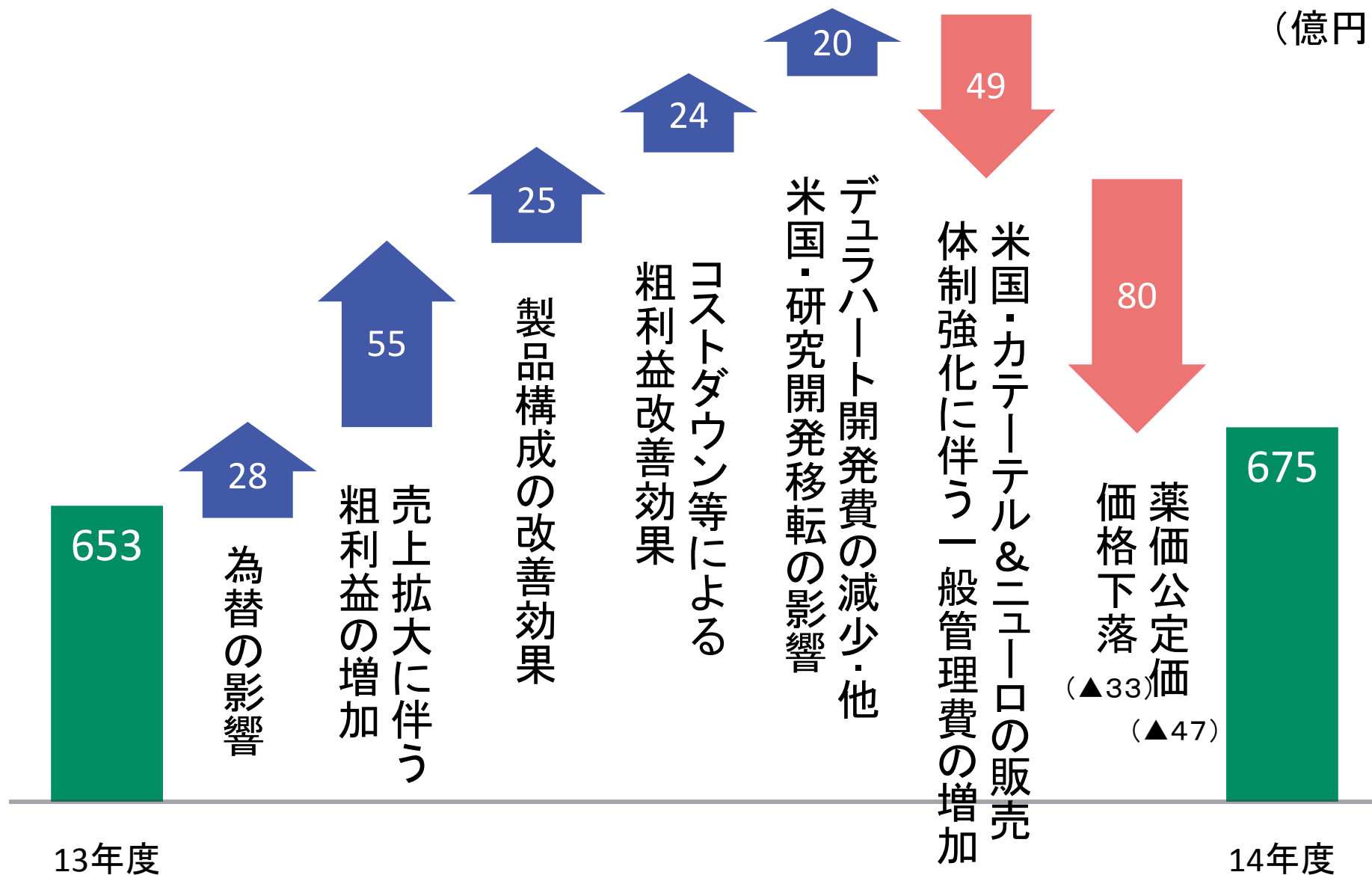
(億円)

	13年度	14年度	増減率	為替除く
売上高	4,674	4,895	+5%	+1%
粗利益	2,420 (51.8%)	2,561 (52.3%)	+6%	+1%
一般管理費	1,466 (31.4%)	1,592 (32.5%)	+9%	
開発費	301 (6.4%)	294 (6.0%)	-3%	
営業利益	653 (14.0%)	675 (13.8%)	+3%	-1%
(のれん等償却除く)	816 (17.5%)	851 (17.4%)	+4%	-1%
経常利益	638 (13.7%)	707 (14.4%)	+11%	
純利益	341 (7.3%)	385 (7.9%)	+13%	

期中平均レート	US\$	100円	110円
	EUR	134円	139円

営業利益増減分析

(億円)



開発費

(億円)

	13年度 実績	14年度 実績	15年度 見通し
開発費	301	294	350
対売上高%	6.4%	6.0%	6.7%

- 14年度: 事業譲渡によるデュラハート開発費の減少
 - 13年度: 9億 ⇒ 14年度: 0億
- 15年度以降: 米国西海岸の新設・研究開発拠点の本格活動開始を含め、カテーテルやニューロを中心に開発を加速

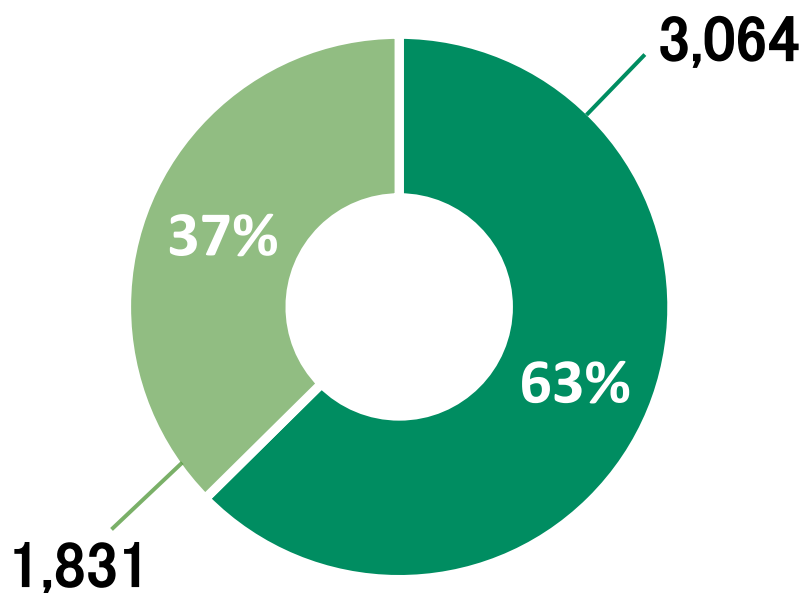
地域別売上高

(億円)

13年度 14年度

()内は為替影響除く

連結: +5% (+1%)

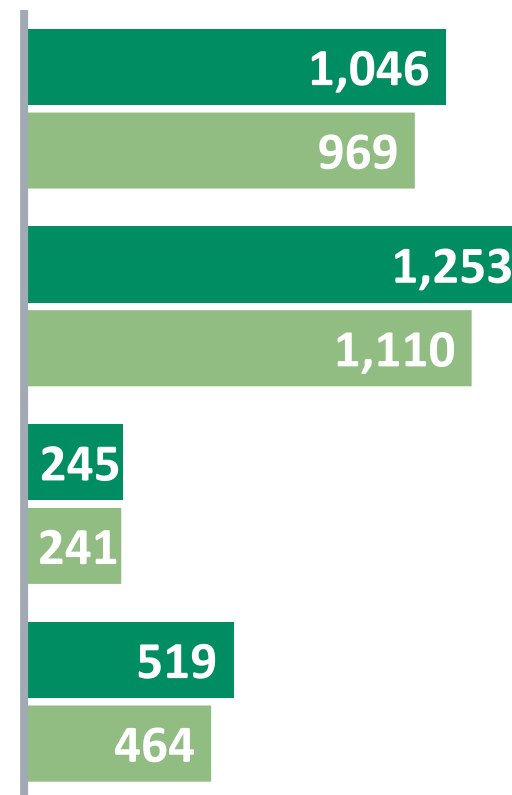


欧州 +8% (+4%)

米州 +13% (+4%)

中国 +2% (-6%)

アジア他 +12% (+5%)

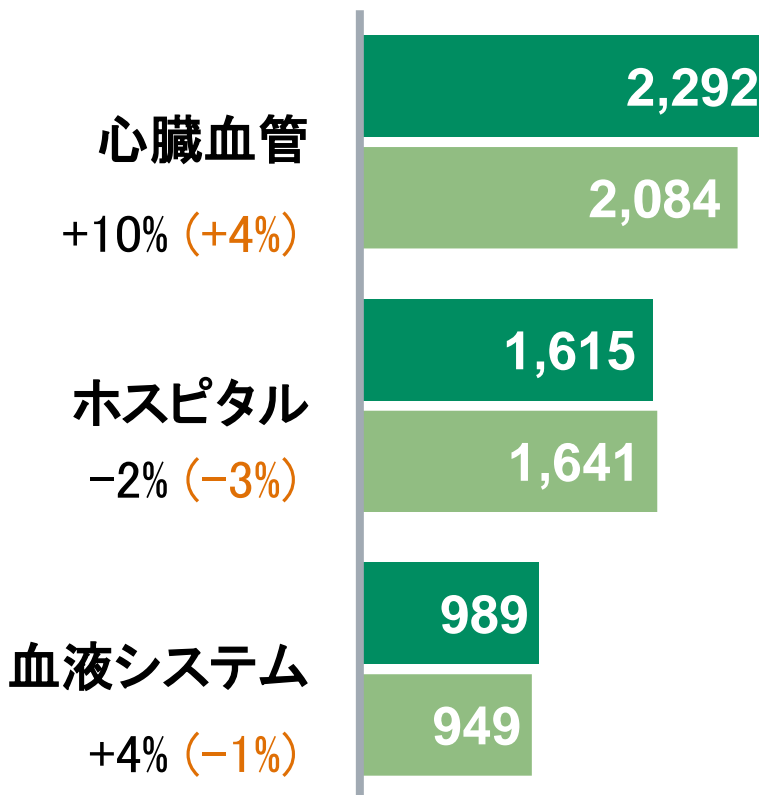
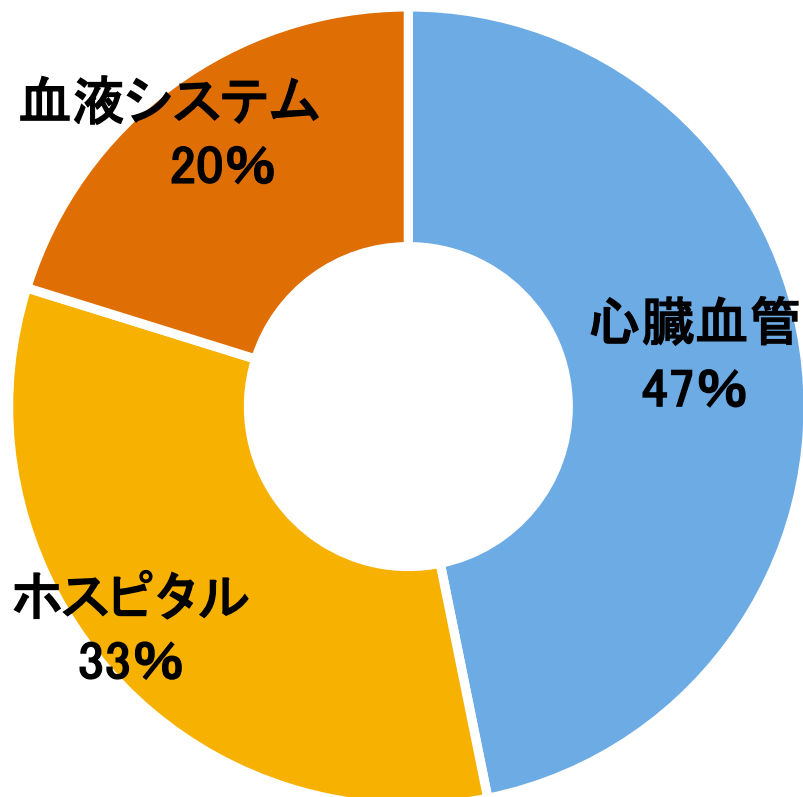


カンパニー別売上高

(億円)

13年度 14年度

()内は為替影響除く



カンパニー別事業利益（率）

（億円）

		13年度	14年度	増減率	為替除く
事業利益	心臓血管	440 (21%)	475 (21%)	+8%	-1%
	ホスピタル	208 (13%)	208 (13%)	+0%	-1%
	血液システム	186 (20%)	185 (19%)	-0%	-3%
	その他※	-17	-17	-	-
営業利益 (のれん等償却除く)		816 (17%)	851 (17%)	+4%	-1%

※ その他：カンパニーに直接関連しない項目

なお、13年度の数字は、14年度と比較するため組替を一部実施

心臓血管カンパニー：増収増益を達成

(億円)

	13年度	14年度	増減率	為替除く
売上高	2,084	2,292	+10%	+4%
事業利益(率)	440 (21%)	475 (21%)	+8%	-1%

<売上面>

- 海外カテーテルやニューロ製品(ステント等)の売上伸長 +175億
- CV製品がグローバルで堅調に推移 + 30億
- 公定価改定の影響 ▲ 37億
- Ultimaster(新DES)は順調に拡大中

<利益面>

- IS事業を中心とした原価改善効果 + 13億
- 品質システムおよび血液モニターにおいてFDAの規制解除(TCVS社)

ホスピタルカンパニー: 厳しい環境の中、収益性維持

(億円)

	13年度	14年度	増減率	為替除く
売上高	1,641	1,615	-2%	-3%
事業利益(率)	208 (13%)	208 (13%)	+0%	-1%

<売上面>

- 国内: 医療市場の環境変化の影響 ▲16億
- 薬価・公定価改定の影響 ▲10億
- 欧米: 低収益アカウントの整理 ▲8億
- 製薬向けB2Bビジネスが海外で伸長 +10億

<利益面>

- ポートフォリオミックスの改善や低収益ビジネスの縮小により収益性を維持

血液システムカンパニー：新興国、アフェシス治療がドライバー

(億円)

	13年度	14年度	増減率	為替除く
売上高	949	989	+4%	-1%
事業利益(率)	186 (20%)	185 (19%)	-0%	-3%

<売上面>

- 中南米・アジアで全血・成分ともに伸長 +24億
- アフェシス治療や細胞増殖システムなどが海外で継続成長 +25億
- 国内：血液センターへの売上の減少 ▲ 12億

<利益面>

- 売上状況に応じた収益マネジメントを実施

14年度パイプライン製品のローンチ状況

領域	製品		地域
心臓	新DES (Ultimaster)	◎◎★	欧・南米・亜
	新PTCAバルーン	◎	欧・南米・亜
ペリフェラル	皮下植え込み型薬液注入システム		日
	肝動脈化学塞栓術オクリューションマイクロバルーン	★	日
	PTAバルーン(膝下)		欧
脳	頸動脈ステント	★	欧
	コイルアシスト・ステント	◎	米
	脳梗塞治療デバイス	◎◎★	欧

領域	製品		地域
アブレーション	腎除神経カテーテル		亜・南米
	TRI腎除神経カテーテル		亜・南米
輸液システム	閉鎖式輸液システム	◎	日
DM	血糖測定システム	◎	日
栄養	逆流防止型流動食	★	日

◎ 業績貢献大、★ イノベーション度高



新DES (Ultimaster)



脳梗塞治療デバイス (ERIC)



血糖測定システム (フィットスマイル)

14年度 業績予想を達成：過去最高の営業・経常利益

(億円)

	予想	実績
売上高	4,880	4,895
営業利益	640	675
経常利益	620	707
純利益	335	385

期中平均レート	US\$	100円	110円
	EUR	140円	139円

純利益の増益要因

- 売上伸長と収益マネジメントによる営業利益の増加
- 円安による為替差益

15年度 業績予想

年間想定レート： US\$ 120円、EUR 130円

(億円)

	15年度 予想	対前年 増減率
売上高	5,200	+6%
営業利益	700	+4%
経常利益	670	-5%
純利益	395	+3%

営業利益：血液の価格下落をリカバリーし影響を最小化(▲27億)

経常利益：14年度は為替差益(66億)を計上

15年度パイプライン製品

領域	製品		地域
心臓	新DES (Ultimaster)	◎◎★	日
	次期血栓吸引カテーテル		欧・南米・亜
ペリフェラル	ステント(膝上)	★	米
	ステント細径化 (Misago)		欧
	PTAバルーン(膝上)		欧・米
	PTAバルーン(膝下)		日
	塞栓用ビーズ	★	欧
脳	コイルアシスト・ステント	◎	日
	液体塞栓剤	★	欧
	プロテクションデバイス	★	欧

◎ 業績貢献 大、★ イノベーション度 高

領域	製品		地域
CV	遠心ポンプ・ディスポ (PCPS用)		日
DM	小型・血糖測定システム		日
血液	自動製剤化システム	★	日



新DES (Ultimaster)

国内ローンチ



液体塞栓剤 (PHIL)

一剤型プレフィルドシリンジ



プロテクションデバイス

頰動脈ステントとのシナジー



血液自動製剤化システム (TACSI)

高品質と省力化を実現

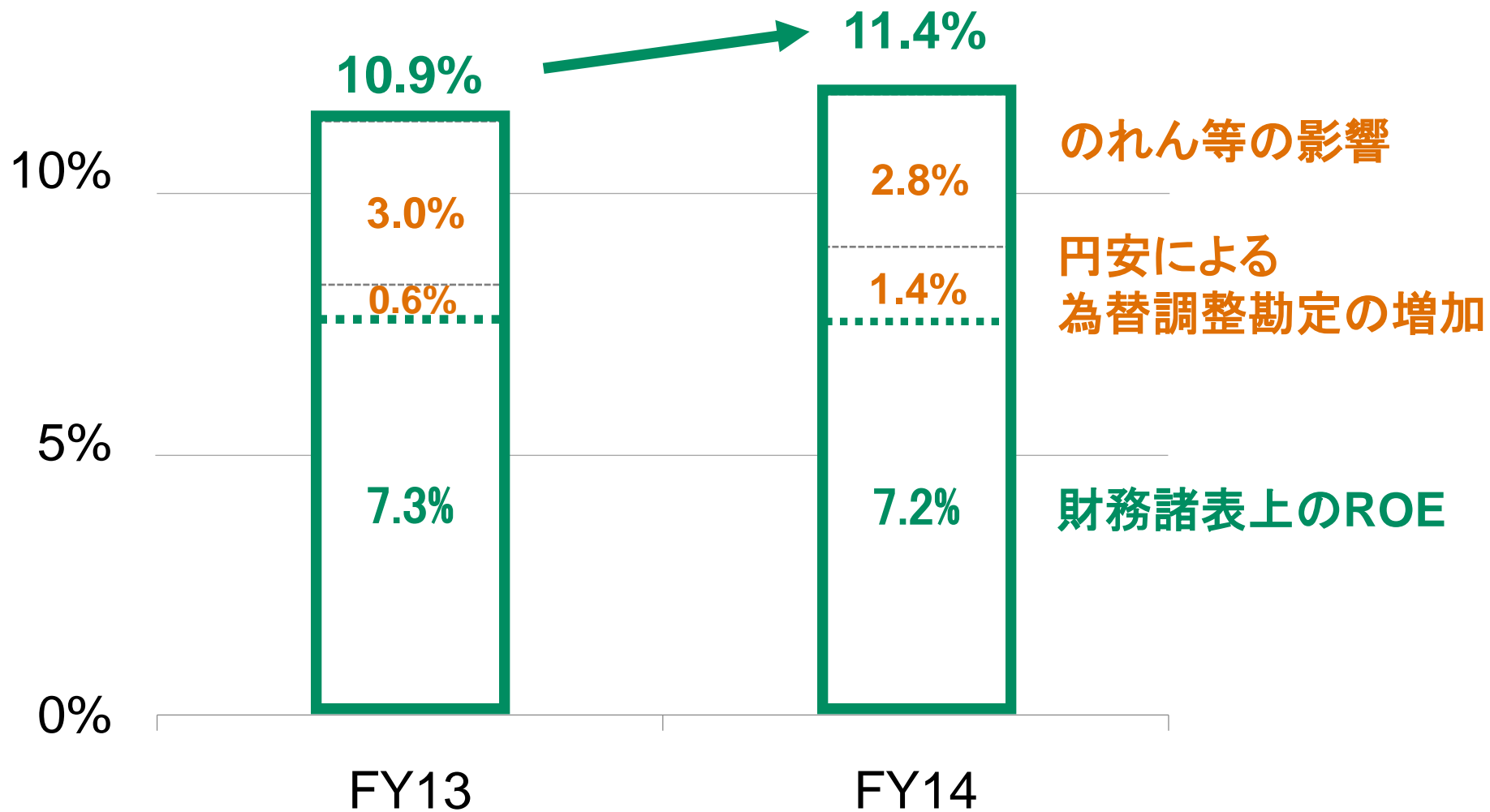
15年度 業績予想:ドル・ユーロ以外の通貨の影響

	14年度 期中平均レート	→	15年度 年間予想レート	
US\$	= 110円	→	120円 (+ 10円)	9%安
EUR	= 139円	→	130円 (△ 9円)	6%高

(億円)

	売上高	営業利益
US\$	+ 168	+ 20 (内のれん-15)
EUR	- 59	- 21
その他通貨	+ 12	- 13 (アジア生産地通貨高-20)
合計	+ 121	- 14

ROE: のれん等・為調の影響を除き、10%超を維持



参考資料

事業別 地域別売上高と伸長率(14年度)

(億円)

事業 セグメント	日本	海外					合計
		計	欧州	米州	中国	アジア	
心臓血管	483 (-2%)	1,809 (6%)	656 (6%)	752 (8%)	189 (-8%)	212 (11%)	2,292 (4%)
うちカテーテル※	369 (-3%)	1,376 (7%)	518 (7%)	516 (11%)	179 (-9%)	163 (11%)	1,744 (4%)
ホスピタル	1,223 (-3%)	392 (-4%)	127 (-0%)	86 (-11%)	16 (12%)	163 (-4%)	1,615 (-3%)
血液システム	126 (-9%)	863 (0%)	263 (-1%)	415 (-1%)	40 (-0%)	144 (8%)	989 (-1%)
合計	1,831 (-3%)	3,064 (3%)	1,046 (4%)	1,253 (4%)	245 (-6%)	519 (5%)	4,895 (1%)

※ ニューロバスキュラー事業含む
()内は為替影響除く対前年同期伸長率

販管費

(億円)

	13年度	14年度	増減	増減率
人件費	638	705	+67	+10%
販促費	142	160	+18	+12%
物流費	105	110	+5	+5%
償却費	227	251	+24	+10%
その他	354	366	+12	+4%
一般管理費計	1,466 (31.4%)	1,592 (32.5%)	+126	+9%
研究開発費	301 (6.4%)	294 (6.0%)	-7	-3%
販管費合計	1,767 (37.8%)	1,886 (38.5%)	+119	+7%

()内は対売上高%

販管費

(億円)

	13年度※	14年度	増減	増減率
一般管理費計	1,543	1,592	+49	+3%
研究開発費	313	294	-20	-6%
販管費合計	1,856	1,886	+30	+2%

※為替の影響を除いた換算値

四半期の動き

(億円)

	Q4 (1-3月)	14年度 Q1 (4-6月)	Q2 (7-9月)	Q3 (10-12月)	Q4 (1-3月)
売上高	1,221	1,149	1,184	1,299	1,263
粗利益	633(51.9%)	607 (52.8%)	623(52.6%)	678(52.2%)	654(51.7%)
販管費	386(31.6%)	379 (33.0%)	385(32.5%)	405(31.2%)	424(33.5%)
開発費	77(6.3%)	67 (5.8%)	69(5.8%)	74(5.7%)	84(6.7%)
営業利益	170(14.0%)	161 (14.0%)	169(14.3%)	199(15.3%)	146(11.5%)

四半期	US\$	103円	102円	104円	115円	119円
平均レート	EUR	141円	140円	138円	143円	134円

営業外・特別損益・法人税

(億円)

	13年度	14年度	
営業利益	653	675	
営業外損益	-15	+32	為替差益 14年度 66
	為替レート 3月末 US\$ 102.9 EUR 141.7	3月末 差異 120.2 (+17.3) 130.3 (-11.4)	
特別損益	-109	-67	欧ポートフォリオ再編 - 56 減損会計 13年度 -150 14年度 - 16
法人税等合計 法人税等負担率	-188 36%	-256 40%	税制改正の影響
純利益	341	385	

設備投資と研究開発費

(億円)

	14年度		15年度 見通し	前年比 増減
	見通し	実績		
設備投資	420	414 (99%)	420	+6
償却費※	410	407 (99%)	450	+43
研究開発費	310	294 (95%)	350	+56

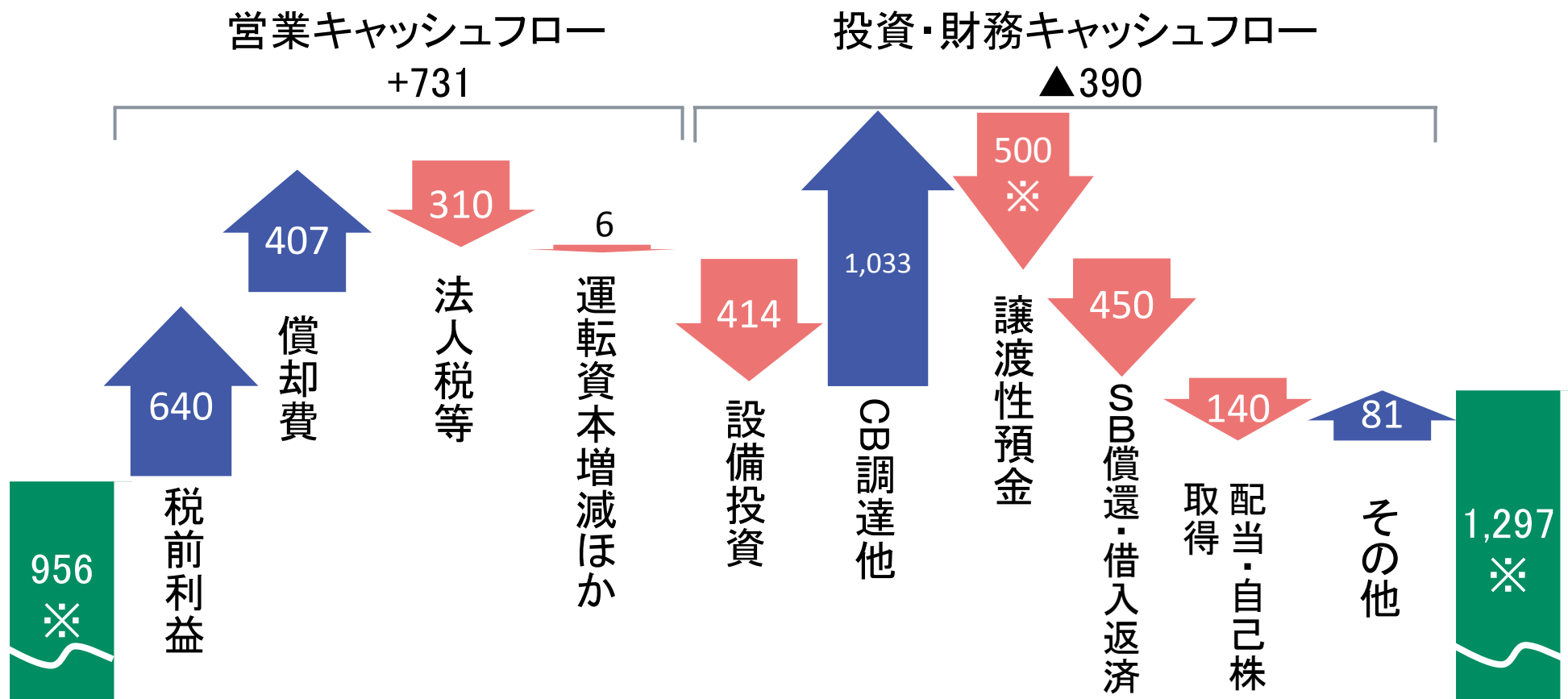
※のれん・無形資産含む、設備投資は取得ベース

※%: 対年間見通し比

キャッシュフロー

- CB1,000億円調達、500億円短期資金運用
- 法人税負担あったが営業キャッシュフローは順調に回復
- 2015年3月にSB400億円償還、自己株取得30億円実施

(億円)



※期末現預金残高はB/S内「現金及び預金」と整合
 ※譲渡性預金はB/S内「有価証券」に表示

為替感応度

14年度

(億円)

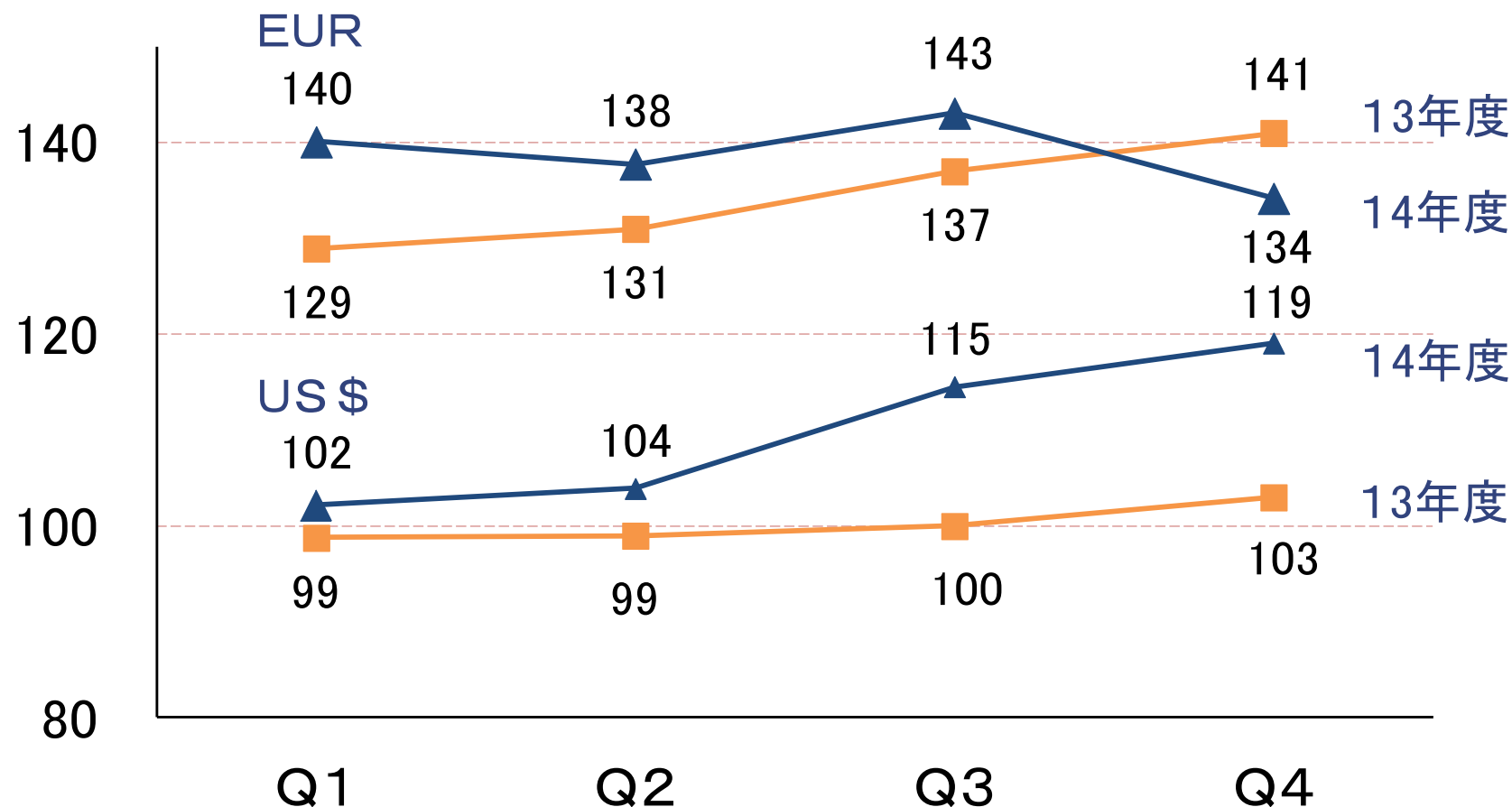
	US\$	EUR
売上高	18	8
営業利益	3	4

15年度

(億円)

	US\$	EUR
売上高	18	7
営業利益	1	2

四半期平均為替レートの推移



(各四半期ごとの期中平均レート)

おことわり

テルモの開示資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。様々な要因により、実際の業績等が変動する可能性があることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、テルモの事業領域を取り巻く経済情勢、為替レートの変動、競争状況などがあります。